



姫路城  
世界遺産登録

30周年記念

第52回

姫路お城まつり協賛

姫路城

たきぎのう

# 新能

《番組》

能 羽衣

はごろも

大槻文藏

福王知登

能 狂言 茶壺

ちやっほ

和合之舞

茂山 茂

能 小鍛冶

こかじ

白頭

上田貴弘  
江崎欽次朗

火入れ式



日時 2023年 11月10日(金) 午後5時00分始

※午後4時00分～親子教室発表会を開催

場所 姫路城 三の丸広場 (特設舞台)

※雨天の場合は姫路市市民会館

YouTube 姫路城新能  
チャンネルもご覧ください

姫路城新能 検索



ホームページ <http://himeji-takiginou.org/>



能楽鑑賞字幕サービス



当公演は能の鑑賞をサポートする「能サボ」に対応しています

入場無料\*

- 【主催】 姫路新能奉賛会
- 【協賛】 江崎福王会・姫路能楽会・上田親正会・大倉華月会
- 【後援】 お城まつり奉賛会・兵庫県・姫路市・姫路市教育委員会・姫路商工会議所・公益財団法人姫路市文化国際交流財団・姫路信用金庫ひめしん文化会

\*広告協賛席の後方に無料席を設けております。\*

\*協賛席をご希望の場合、当日協賛も受付けております。

ご案内図 JR姫路駅・山陽電鉄姫路駅から徒歩15分

写真提供: © 牛窓雅之 ■題字: 清元秀泰姫路市長 揮毫

●観世流能「羽衣」  
かんせりゅうのう はころも

和合之舞

春の朝、三保の松原に住む漁師・白龍（はくりょう）は、仲間と釣りに出た折に、松の枝に掛かった美しい衣を見つけます。

家宝にするため持ち帰ろうとした白龍に、天女が現れて声をかけ、その羽衣を返して欲しいと頼みます。

白龍は、はじめ聞き入れず返そうとしませんでした。「それがないと、天に帰れない。」と悲しむ天女の姿に心を動かされ、天女の舞を見せてもらおう代わりに、衣を返すことにします。

羽衣を着た天女は、月宮の様子を表す舞などを見せ、さらには春の三保の松原を賛美しながら舞い続け、やがて彼方の富士山へ舞い上がり、霞にまぎれて消えていきました。



能「羽衣」

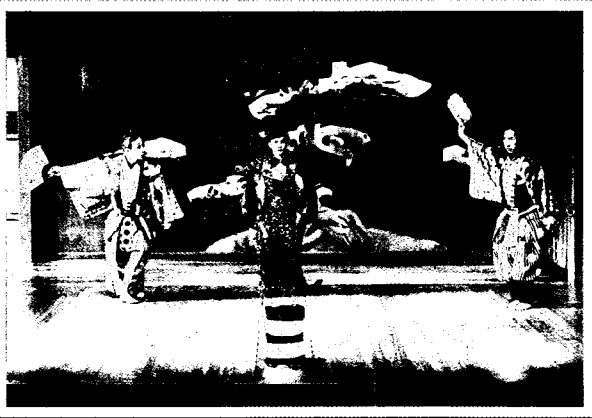
●大蔵流狂言「茶壺」  
おおくらりきやうまきげん ちゃっぽ

田舎者の麻胡六が酒に酔って茶壺を背負ったまま眠っているところへ、すっぱの熊鷹太郎がやってきて茶壺を盗もうとして、争いになります。

それぞれが自分の物だと言い張るので、目代が裁くことになり、二人にお茶の由緒や銘などを聞きますが、田舎者の言うことをすっぱが盗み聞きしては同じように答えて埒があきません。

二人で連舞いをするように命ずると、すっぱは田舎者の方をチラチラ見ながら同じように舞い、やはりどちらが本当のことを言っているのかわかりません。

最後にお茶の目方を聞かれた田舎者が小さな声で目代に答えたため、今度も真似をしてごまかそうとしていたすっぱには聞き取れず、答えられなくなり、ついに見破られたすっぱは逃げ出すことになります。



狂言「茶壺」

●観世流能「小鍛冶」  
かんせりゅうのう こかじ

白頭

時は十一月、一条院の受けた霊夢により、勅使橋道成は三条宗近に太刀の用命を告げます。自分に勝るとも劣らぬ相槌を打つ者が居ず、途方に暮れて宗近はとりあえず氏神を頼み、稲荷神社へ参拝します。

すると、明神の化身が現れ中国の名刀の話、そして我が国における草薙の剣の威徳を仕方話で示し、心安じて壇を作り待つように言い添え稲荷山へ消えます。

——中入——

やがて、宗近の前に神狐の姿の稲荷明神が現れ、宗近の相槌を勤め、太刀を打ち上げ勅使に捧げると、又雲に飛び乗り稲荷山へと帰って行きます。

白頭（しろがしら）の小書ですので、後シテの面も変わり白頭に白装束になる事もあり、藪（ロウ）だけ威厳のある白狐の相へ変化が見られ緩急の激しい演出となります。



能「小鍛冶」